

**〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 国語科〉**

<p><b>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題で問われていることを正確に読み取ることができるようにすること。</li> <li>・自分の考えを図や文章を使って表現できるようにすること</li> <li>・文章を正確に読み取り、登場人物の気持ちを考えたり、筆者の考えを書き抜いたりすること。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が伝えたいことや思ったことを、短い文章で書けるよう学習感想を授業の終わりに書かせる。</li> <li>・「はじめ」「中」「終わり」で構成を考えて、作文を書かせる。</li> <li>・2年生の新出漢字の使い方を正しく確実に覚えさせる。</li> <li>・対話活動の際に、十分な話し合いが展開できるよう、意図したグルーピングを行う。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文や説明文を読むポイントを提示する。</li> <li>・読み取ったことが視覚的に分かるように、色を分けて線を引く。</li> <li>・自分の考えを図や文を用いて表し、友達に説明する場面を多く設ける。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①新出漢字を正しく練習し、文をスムーズに読んだり書いたりできるようにする。また、自分の考えを書き表す方法を身に付けさせる。</p> <p>②スキルタイムを活用し、既習内容を振り返る。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①毎時間の漢字練習を丁寧に行う。家庭学習としても漢字ドリルを用いて、反復練習を行い、小テストを用いて検証する。また、文の書き方の例や、図用いた説明の方法を提示し、ノートをもとに検証する。</p> <p>②プリントやドリルの進捗状況をもとに検証する。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを言葉で表す事ができるようになった</li> <li>・人物の気持ちを考えることができるようになった</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力が少ないため、文章中の表現を読み取れないことがある。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力を増やす工夫が必要。</li> <li>・読み取りのポイントを事前に指導する。</li> </ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を正しく読み取り、質問されていることに対応した答えが書ける児童</li> </ul>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 算数科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題で問われていることを読み取り、正しく立式することができるようにすること</li> <li>・自分の考えを、既習内容を使ってノートに書くことができること</li> <li>・基礎的な計算や単位を正しく覚えること</li> </ul>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題把握の場面で、解決方法の見通しがもてるよう、毎回の導入場面で既習事項を振り返る。</li> <li>・自力解決の場面で、自分の考えをノートに書く際に、「図」「式」「言葉」を活用し、説明できるようにノート指導を行う。</li> <li>・対話活動の際に、十分な話し合いが展開できるよう、意図したグルーピングを行う。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文に線を引き、情報を視覚的に整理する。</li> <li>・導入で単元に関する学習内容をおさらいし、自力解決に生かす事ができるよう促す。</li> <li>・単元ごとに小テストを実施し、スキルタイムなどを活用して補修を行う。</li> </ul>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①導入で復習を取り入れ、繰り返し練習を行う。</p> <p>②視覚的におさらいしたことが分かるようにする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①導入やスキルタイム、家庭学習を活用し、繰り返し習ったことを活用する機会を多く設ける。</p> <p>②板書を工夫し、おさらい部分が一目で分かるように整える。</p> </td> </tr> </table>		<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①導入で復習を取り入れ、繰り返し練習を行う。</p> <p>②視覚的におさらいしたことが分かるようにする。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①導入やスキルタイム、家庭学習を活用し、繰り返し習ったことを活用する機会を多く設ける。</p> <p>②板書を工夫し、おさらい部分が一目で分かるように整える。</p>
<p>&lt;方策&gt;</p> <p>①導入で復習を取り入れ、繰り返し練習を行う。</p> <p>②視覚的におさらいしたことが分かるようにする。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①導入やスキルタイム、家庭学習を活用し、繰り返し習ったことを活用する機会を多く設ける。</p> <p>②板書を工夫し、おさらい部分が一目で分かるように整える。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを書き表す表現方法(図・既習内容の活用)を選択できるようになった児童が増えた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎計算の定着に差があり、特に文章問題では読み取れる児童とそうでない児童の差が大きくなる。</li> </ul>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の復習を学習の導入で行う。</li> <li>・基礎学力を定着させるための反復練習</li> </ul>		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを、自分に合った方法で書き表し、正しく計算することができる児童</li> </ul>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 生活科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活体験が乏しく、具体的なイメージを持ちにくいこと</li><li>・語彙が少なく、物の見方や考え方に偏りがあること</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然事象について直接体験を重視した学習活動を展開し、生活科での学びを実生活に生かせるようにする。</li><li>・自分たちの町には安心安全につながるものがたくさんあり、安心して生活できるという安心感や親しみ、愛着の気持ちをもてるような単元計画を作成する。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実際に体験することができる活動を多く取り入れる。</li><li>・見学したり、観察したりするポイントをおさえてから活動する。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>①地域の関係機関と連携して学習計画をたてる。</p> <p>②視点を具体的に示し、より詳しく見たり聞いたりすることができるようにする。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>①地域の関係機関に働きかけ、働いている人の思いや、行われている仕事について、様々な方法でまとめる。</p> <p>②活動に入る前に、言葉の意味を確認し、全員が同じ視点で物事を見られるようにする。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実際に体験する活動を多く取り入れたことで、具体的なイメージをもとに交流したり、話し合いができたりするようになった。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基盤となる生活体験に差があり、それによって活動中のものの捉え方に差がある。</li></ul>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・体験を重視した活動を多く取り入れる</li><li>・生活の中で様々な出来事に興味を持たせる工夫</li></ul>
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・様々な体験を通して、たくさんのことに気付き、共有できる児童</li></ul>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 音楽科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。</li> <li>・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。</li> <li>・歌唱や器楽（特に鍵盤ハーモニカ）の技能の個人差が大きく、支援を要する児童については特に丁寧に個別指導を行う必要がある。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。</li> <li>・曲を聴いたり絵譜を見たりして曲想の感じ取りを深めたり、様々な表現方法を体験したりして、曲想を感じ取った表現ができるようにしている。</li> <li>・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①曲を聴いたり絵譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。</p> <p>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲想の感じ取りを深めることができたか確かめる。</p> <p>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言を促したりワークシートに記入したりすることで、曲想の感じ取りや表現の工夫に深まりが見られた。</li> <li>・歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、技能を高めることができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じ取ったことを表現に生かせるようにする。</li> <li>・技能を定着させ、次の学習に生かせるようにする。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言やワークシート等で感じたことや気付いたことを表出できる児童が比較的多いが、選択肢を与えたり個別の声掛けをしたりする等の手だてが必要な児童もいる点に留意する。</li> <li>・技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択や題材計画に軽重を付ける等の工夫をしたり、個別指導を重点的に行ったりする必要がある。</li> </ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことや気付いたことを生かし、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりする学習に進んで取り組むことができる児童</li> </ul>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 図画工作科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。</li> <li>・道具や材料の基本的な使い方をしっかりと理解するとともに、表し方をさらに工夫する力を高める。</li> <li>・一つの発想方法や考え方だけでなく、様々な方法があることに気付き、意欲的に楽しんで試せるようにする。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や道具などの使い方を掲示やICTを活用して確認して、工夫の仕方などを理解する。</li> <li>・活動自体を楽しみ、新たな自分の側面や表現方法に気付けるように、体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>① 掲示やICTを活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。</p> <p>② 体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>① 児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。</p> <p>② 児童や作品の観察。全児童がある程度新たな表現方法の面白さなどに気付けるようにする。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <p>① 掲示やICTを活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行い、さらに発想に結び付く資料を授業内に提示ことで、児童の学習の意欲を高めることができた。</p> <p>② 体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構想や、手法が広がりすぎてしまうので、めあてを明確に指導する。</li> <li>・素材や道具などの特性を指導しないとケガにつながるので安全管理に気を付ける</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活規律への意識の継続と向上。学習ルールの徹底し、安全確認を常に行い、事故のないようにする。</li> <li>・ねらいを焦点化し、児童の主体性を生かしながら、協働的な制作の場を増やす。ICT機器を活用し、見取りや評価を迅速にし、個別最適化を目指し、きめ細やかな指導をする。</li> </ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的な視点について自分の感覚や行為を通して気付き、楽しくつくったり表したりすることができる児童。楽しく発想や構想をし、自分の見方や感じ方を広げたりすることができる児童。楽しく形や色等に関し豊かな生活を創造しようとする児童</li> </ul>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・体をうまく使いこなす事ができないこと</li><li>・活動の意図や、危険な部分に気づきにくいこと</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基本的な動きの手本やポイントを動画で確認したり、自分の動きをタブレット端末で友達と撮影し合ったり、ICTを用いて自己確認できる授業展開を計画する。</li><li>・単元ごとに、同じめあてをもつ同質グループと、違うめあての達成を目指す異質グループを作り、児童同士が教え合い学び合えるスタイルを作る。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・多様な動きに触れる機会を設けたり、様々な動きを実際に見せたりすることでバリエーションを増やす。</li><li>・「何のために活動するのか」「やってはいけないことは何か」目的意識を持たせ、活動に意欲的に取り組むことができる場面を増やす。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①自分たちの考えを交流できる場の設定を行う。</li><li>②事前に活動内容の提示方法の工夫をする。</li></ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①友達の考えを聞いて、自分の動きと組み合わせたり、うまく動くポイントを見つけたりできるようにする。</li><li>②活動前に目標を立て、自分ができるようにしたいポイントを確認する機会を設ける。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・活動の場を多く設けることで、子供たちの運動量があがった。</li><li>・友達のよい動きを見付け、生かそうとすることができるようになった。</li></ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・準備に時間がかかる。</li></ul>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・動きのポイントの確認</li><li>・準備をする際の手順を明確にする</li></ul>
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・運動を楽しみ、いろいろな動きにチャレンジしようとする児童</li></ul>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第2学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人物の気持ちを想像したり、背景にある事象に目を向けたりすることが難しいこと</li><li>・生活経験が少ないため、考えに偏りがあること</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・道徳の教材と児童たちの経験をすり合わせる活動を導入時に取り入れて、問題を自分事のようにとらえられるようにする。</li><li>・役割演技などの活動を取り入れ、登場人物の心情に寄り添えるようにする。</li><li>・他者とテーマについて対話することによって、物事を一面的ではなく多面的に考える、また、一つの視点からではなく様々な角度から多面的に考える。</li></ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「自分だったら」と、状況を把握し、自身に置き換えて考える場の設定をする。</li><li>・多様な考えを受け入れたり、多面的に物事を考えるための発問をしたりする。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①自身の生活体験と関連した状況設定をする。</li><li>②多様な考えに触れる機会を設ける。</li></ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①日常生活の中で似たような題材を見つけて学習に関連させ、自分の考えをもつことができるようにする。</li><li>②個々の考えをグループや全体で交流し、多様な考えに触れられるようにする。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・身近なことを導入の質問に取り入れることで、より自分のこととして考えられるようになった。</li></ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・具体的にどうしたらよいか、どのような行動をしていくかを書き表すことはまだ難しい。</li></ul>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・児童が物事を身近なこととしてとらえやすい教材の選定</li><li>・自分の思いを伝えることができる場の設定</li></ul>
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分だったらどうするか、という視点で物事を考えられる児童</li></ul>	